

原野谷川農地防災ダムの役割

静岡県中遠農林事務所
農村整備課

昭和38年の豪雨被害の様子

○ダムが作られた背景

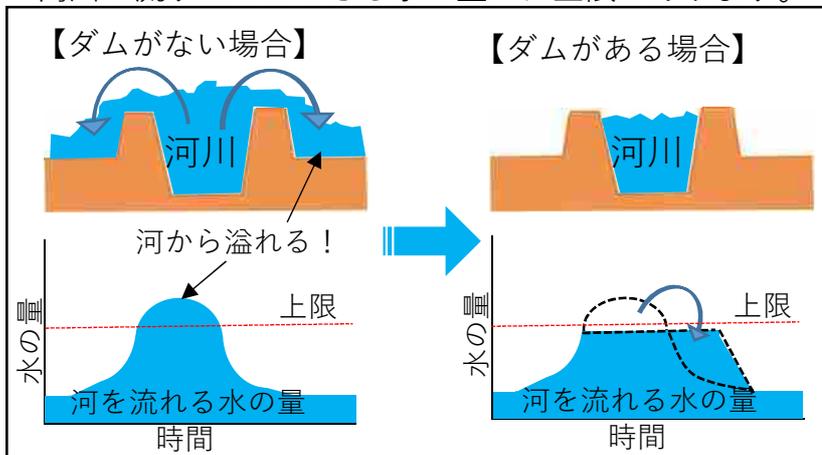
原野谷川では、昭和38年の豪雨により甚大な被害が発生しました。

それを契機に洪水調節ダム建設の要望が挙がり、県営事業により昭和45年に原野谷川農地防災ダムが造成されました。



○洪水調節とは？

河川で流すことができる水の量には上限があります。



雨が降ると河へ水が流れ込みますが、河川の上限を超える水の量が流れ込むと河があふれてしまいます。

このあふれてしまう分の水を一時的にダムに貯めることで河川へ流れ込む水の量を抑えることができます。

これを洪水調節といいます。原野谷川農地防災ダムでは普段は水を貯めずに50年に1度の規模の豪雨時にも河川があふれないように備えています。

○ダムのサイレンはいつ鳴るの？

ダムの下流には5つのサイレンが設置されており

- ①点検や整備で人為的に貯めた水を流すとき
- ②豪雨時にダムが満水になり「越流」するときにサイレンを鳴らすことになっています。



【気を付けて!!】

サイレンが鳴ると河川の水の量が一気に増えることとなります。

特に②のサイレンでは、大雨で既に河が一杯のときに、さらにダムに貯めきれなくなった水が河川へと流れていきます。

大雨のときにサイレンが鳴った場合には河の水が溢れる危険性が非常に高くなるので絶対に河川へ近づかないようにしてください。



台風15号ではわずか6時間でダムが満水になりました。

